

7 「山・住」合同分科会 要旨

San-En-Nanshin Summit 2009 in Higashimikawa

「山・住」合同分科会では「広域連携による生活環境の向上と流域定住の促進」をテーマに、議論が進められた。

定住自立圏構想についての報告では、南信州の取り組みのほか、三遠南信地域におけるより高度な定住自立圏の可能性にも触れられた。

重点プロジェクトの実現に向けての意見交換では、広報、新聞等による情報交流や地域間の仲介といった交流連携の促進、広域的な総合定住政策の必要性、上流域と下流域における役割分担といったSENAの役割について意見が出された。

コーディネーター	社団法人東三河地域研究センター	常務理事	戸田 敏行
アドバイザー	静岡文化芸術大学	副学長・教授	上野 征洋
行政	袋井市	副市長	池野 良一
	設楽町	副町長	原田 理
	飯田市	市長	牧野 光朗
	平谷村	村長	小池 正充
	根羽村	村長	小木曾 亮式
	下條村	村長	伊藤 喜平
	泰阜村	村長	松島 貞治
	豊丘村	村長	吉川 達郎
経済	浜松商工会議所	会頭	御室 健一郎
	津具商工会	会長	伊藤 武
	鳳来商工会	会長	片桐 幸信
住民	鞍掛山麓千枚田保存会	副会長	小山 舜二
	天龍村柚餅子生産者組合	組合長	関 京子

(敬称略)

■ 第16回の三遠南信サミット2009 in 遠州における「山・住」合同分科会の議論について



コーディネーター

まず、第16回の三遠南信サミットの「山・住」分科会における議論について確認させていただき、そこから始めていきたいと思う。事務局に説明をお願いします。

事務局

昨年の分科会の内容であるが、1つ目は、中山間地域の活性化である。交流促進から定住へという考え方、地域産品の充実、地域で活躍する人づくりが大切であるというものである。

2つ目、天竜川、豊川等の河川を軸に、流域の交流を促進させて定住促進を目指すことが上流域、下流域相互のメリットになるというものである。

3つ目、医療、公共施設、防災体制の強化を、県境を越えて行っていくというものである。これについては、意見は少なかったが、現在の交流をテコにして、将来展望として、医療や防災の連携にも目を向けていきたいというものである。

コーディネーター

去年と今年とでは、SENAという推進機構が立ち上がったということが大きな変化である。SENAをベースに次の段階に進みたい。

「山」の部分では、上下流域の自治体が連携する流域定住の推進体制をどのように構築するのか、「住」の部分では、医療あるいは防災、公共施設利用に関する連携を、実現可能なところで一歩進めるほか、基調講演にあったように、制度変革の必要性を全国に向け発信することを、論点として出していければと思う。

それでは、まず、飯田市の牧野市長から、「定住自立圏構想による地域活性化」についてご報告いただきたい。

■ 定住自立圏構想による地域活性化について

飯田市長



「定住自立圏構想による地域活性化」ということで、私どもの地域の取り組みを紹介させて

いただく。南信州地域は、伊那谷の南部の南アルプスと中央アルプスに囲まれた地域である。飯田市で10万6,000人、南信州圏域全体で17万人余り、高齢化率は28、29%という状況である。人口減少、少子高齢化という大きな波を受けている典型的な地域ではないかと思う。この地域の85%以上が山林で、中山間地域を主体とした地域だといえる。

中山間地域では、独自の時間を刻みながら農業を営み、霜月祭りのような伝統文化芸能を守っている。日本の原点といわれる文化を維持することなく、地域が廃れてしまっても良いのかと思う。こうした地域をいかに持続可能にしていくのが非常に大切である。

今日は、持続可能な地域づくりという観点から、環境と人という2つの視点を提示したい。

まず環境については、日本全体でも2050年で80%のCO₂削減という大きな目標が提示されたが、こうした環境の視点は、地域においても欠かせないものである。飯田市は平成8年の第4次基本構想基本計画において、目指すべき都市像として環境文化都市を掲げており、平成19年には環境文化都市宣言を行い、そして、平成20年には環境モデル都市に応募して、今年1月に認証された。環境モデル都市は、全国13地域で、中部地域では、富山市や豊田市と並び、そして人口10万の都市では飯田市のみである。環境モデル都市飯田市の考え方は、個人のライフスタイルを低炭素化することを軸とし、これに基づき地域づくりを進めるというものである。中心市街地では、自転車によるまちづくり、エコハウスの建設などを計画し、着手している。全体でタウンエコエネルギーシステムを構築して、2050年には温室効果ガス70%削減を目指している。

中山間地域との関係では、飯田市だけでなく南信州地域全体で農村をステージにしたエコツーリズム、グリーンツーリズムに取り組んでおり、全国的にも注目されている。現在では年間110校がこの地域を訪れ、約500戸の農家が受け入れをしている。直接的な経済効果は3億

4,000万円であり、大きな産業の1つに育ってきている。

その中心を担っているのが南信州観光公社である。飯田下伊那の市町村のほか、地元産業経済団体等々の出資を得て平成13年に設立されたものである。

自然豊かな田舎が潜在的に持つ「学びの力」、地域で子供を育てる力、これを地育力と言っているが、こうした力をもっとつけていこうという流れになっている。また、単なる旅行を通しての交流から定住に結びつけていけないかと考えている。

もう一つは、人に着目した取り組みである。人口減少、少子高齢化ということを考えると、2050年にCO₂70%削減という超長期的な地域の目標を達成するためには、地域の将来を担う人材を確保することが大きな課題となる。

こうした観点から、飯田市では、平成19年から第5次基本構想基本計画において目指すべき都市像として文化経済自立都市を掲げた。特に、高校卒業後約8割の人がこの地域を一旦離れるといった現状があるため、若い人たちがこの地域に帰って来られるような産業づくり、人づくり、地域づくりを一体的に行うことによって、長期的な人材のサイクルを構築する必要がある。

そうした考え方を、飯田市のみならず、周りの町村の皆様とも一緒になってできないかと考えたのが、この定住自立圏である。私ども南信州地域では、10年前から、広域連合においてプラットフォームを形成し、必ず1ヵ月に1度は市町村長が集まって、地域の課題について話し合いをしてきた。

飯田市立病院を中心とする地域全体での地域医療体制という考え方、地場産業センターを中心とする地域産業全体の活性化及び雇用の拡大という考え方、地域全体による地域公共交通システムの維持という考え方、こうした考え方を定住自立圏構想という国の制度に上手くのせることができ、全国に先駆け、今年6月の市町村議会において議決していただき、7月14日には、1市3町10村で定住自立圏構想形成協定を結ぶこ

とができた。

こうした地域課題の広域的解決という試みは、私は、南信州だけではなくて、それをさらに広げて、三遠南信地域に拡大することで、さらに大きな課題にも対応できるのではないかと思っている。実際、定住自立圏制度の考え方は、こうした生活圏を中心とした基礎的な定住自立圏と、もう少し大きな単位を中心とした高度な定住自立圏という考え方がある。これは、明らかに三遠南信圏域を意識したようなものだと私は思っている。

大都市圏と地方圏においては、人材のサイクルを構築し、各地方圏における人材確保を目指す。地方圏の中では、定住自立圏の形成協定を締結することで圏域内の人口の確保を図る。

そして、もう一つ忘れていけないのは、飯田市は合併により大きくなった市ということである。飯田市には、山も、里も、町もあり、それぞれの特徴を活かした市域づくりが必要だと考えている。特に今、山の地域及び町の地域から里の地域に人口が移動している。山における過疎化、町における空洞化の進行に歯止めをかける対策を、それぞれの地域で行う必要がある。

特に今日のテーマである中山間地域については、飯田市は、中山間地域振興計画を今年の3月までにまとめ、地域の人口の減少に歯止めをかけていきたい。具体的な取り組みとして進めているのが、中山間地域の地域振興住宅整備事業である。

人材のサイクルにより地域に人が帰ってきて、里に住んで山が過疎化しないよう、山に定住する仕組みが必要であり、過疎化により空室となった公営住宅や教員住宅を地域振興住宅として定義し直し、若い人たちが住めるような仕組みを考えた。山には、アパートのような民間の存在がなく、それをこういった地域振興住宅で補うというものである。こうした多様性の保持というのは非常に重要で、町も、山も、里も、それぞれ魅力をもう一度取り戻すためには、行政だけでなく地域の皆様、企業の方といった多様な主体による持続可能性の追求というものが

求められるのではないかと考えている。

最後に、産業という観点から中山間地域も考えていく必要があると思う。例として、環境モデル都市と指定された飯田市では、地元企業18社が参加し、安価なLED防犯灯の開発に成功した。当時、5万円から7万円といわれた防犯灯が、この地域で、2万円以下で生産できるようになった。これにより、飯田市においては、約6,000基である防犯灯の半分をLED化する目途が立った。こうした競争力のあるものを、是非他の地域でも使っていただき、環境に優しい地域を目指してもらえればということをお知らせいただき、私からの報告とさせていただきます。

■ 上下流域連携による流域定住の推進体制の整備について

コーディネーター

それでは、議論に入ってまいりたい。最初に、上下流域が連携した流域定住の推進体制整備について、南信州のような取り組みを広げられるかどうか、まず、生活者の視点からご意見をいただきたい。

鞍掛山麓千枚田保存会副会長

私は、平成3年から四谷の千枚田を文化的要素として何とか残そうと活動している。現在、年間1万4,000人の人が訪れている。問題は、人を迎えるために田んぼの草刈の回数を増やし手間をかけて風景を守っているが、特に売るものがなく、お金を落としてもらえない仕組みがないことである。農業生産の場とするのか、観光地化すべきなのか悩んでいる。現在千枚田の保存会を結成し、行政の支援を受けている。若い人たちが23名で村づくりのための「お助け隊」を結成し、これが若い人の流出を止める効果を果たしている。

天龍村柚餅子生産者組合組合長

私たちの住む坂部地区は、人口が30人、15戸となってしまった限界集落である。その中で、年60回余り、食文化に関するお祭りを行い、そ

れを残そうとしている。お祭りには浜松や豊橋の方も来ていただいている。また、愛知大学や信州大学の方々が柚餅子づくりに来ていただいている。受け入れ側の高齢化や宿泊施設の整備が課題であるが、地域で収穫したものをお出しして、是非幸せを感じてお帰りいただきたいという思いでやらせていただいている。

コーディネーター

次に、自治体の皆様から、定住についての戦略をご発表いただきたい。

下條村村長

私は平成4年に今の職に立候補したが、そのときの公約は、人の増える村にしようというものだった。財源確保のため、行政のぬるま湯体質を徹底して改善した。また、そういった姿勢を示すことで、村民の皆様にも自分でできることは自分でやってもらうようにした。街づくりの意識も変わってきた。図書館、福祉施設、文化ホールの建設のほか、住宅施策にも取り組んでおり、若者にも入ってきていただいている。補助金に頼らず全て村負担で住宅建設を行うことで、村が独自に入居者の条件を決めている。これが円滑なコミュニティづくりやひいては定住につながると考えている。

下條村は、天竜川流域にある。基調講演で川を輸送手段に使うという話があったが、急流で断崖絶壁が多いため困難だと思われる。三遠南信自動車道の天竜峡インターチェンジができたことにより名古屋の企業の60人規模の工場が進出したので、広域の中で優秀な労働力を提供していただき強い企業になってもらえればと思っている。公共交通機関はほとんどなく、「乗って残そう飯田線」というキャンペーンを行っている。

根羽村村長

根羽村は、長野県の一番南で岐阜県と愛知県に接し、矢作川の上流にある。古くから林業が盛んで、1戸当たり5.5ヘクタールの山を持って

いる。60%が村有林である。

大正3年に、愛知県の下流域の明治用水土地改良区、安城市の方たちが、「水を使う者は、自ら水をつくれ」という理念から、一番上流であるの根羽村の1,427ヘクタールの水源涵養林を買ったことをきっかけに、100年近く交流が続いている。現在では特にアイシングループの皆様と、年に4回、親子わんぱく体験隊、夏のアユのつかみどり、間伐の体験など、体験学習及び環境学習を行っている。

根羽村は、人口減少しているが、住宅を整備し、森林組合等の職場を確保することで、下流域や関東、関西方面から130人ほどのIターンの方に来ていただいた。村に入らせていただく際には面接を受けてもらい、消防団や祭への参加をお願いしている。Iターンの方のための専用の宅地を造成したり、根羽杉で家を建てる場合は柱を50本無料で提供したり、結婚相談員を設けるなどの施策に取り組み、定住推進を図っている。

浜松商工会議所会頭

我々下流域の者が、上流域の方々に貢献できることとして、コンピュータのソフト関連企業等の工場の進出ということが考えられるが、現在非常に厳しい状況である。低炭素社会との関係では、下流域の資本力のある企業が中流域あるいは上流域の山林を取得するということが考えられるが、これも実行に移すのは難しい。三遠南信自動車道が開通すれば、交流人口を増やすことができ、また上流域に定住することも可能になる。

個人的な話で恐縮だが、佐久間ダムの近くに私の実家があり、また山林を持っているが放置林となっていた。その手入れを森林組合に依頼したところ、竹炭作りや、間伐をしてどんぐりを植えるといった提案があった。経済林としては採算が合わないため、地元の人に楽しんでもらうような連携も良いと思う。また、自然を活かし林間学校を開きたいとも思っている。

浜松市は、市域1,500平方キロメートルのうち

の76%が山林である。天竜林業地域は約10万ヘクタールほどあり、大半が放置林となっている。水源林としての活用や森林組合の活性化など総合的な戦略の構築が必要だと思う。

袋井市副市長

下流域の自治体として発言させていただく。袋井市は天竜川左岸、磐田市の隣に位置し、人口は8万7,000人、面積は108平方キロメートルである。高齢化率は県下でも低い18.12%、人口は年々微増している。区画整理、企業誘致、雇用の場の確保、地震対策、防犯対策、子育て支援及び自治会の関係に力を入れている。農業は、米、お茶及びマスクメロンが盛んである。後ほど機会があれば飯田市長に木質ペレットの話をお願いしたい。この分科会に参加し、下流域の自治体に期待するものを皆様からお伺いしたいと思っている。

コーディネーター

ここでアドバイザーの上野先生に、上下流域が連携する定住促進についてお話をいただきたい。

アドバイザー

まず、上流域、下流域の交流に関して、三遠南信サミットも随分回を重ねてきたが、上流域の町と下流域の町の情報が相互に伝達していないのではないかと疑問を持った。UターンやIターンを希望する人、あるいは農業を希望する人が、都市部では情報を得にくいのではないかなと思う。よって、まずは、それぞれの自治体の広報やケーブルテレビを利用して活発に上流域下流域相互の情報交流をすべきでないかなと思う。

次に定住促進であるが、それぞれの町や村の人が自らまちづくりをすることで町や村の魅力が生まれると思う。飯田市の牧野市長を始め、ここにいらっしゃる村長さんたちも、都会に出て自分のふるさとへ帰った方が多いと思うので、自らモデルとなってUターン、Iターンを広めてほしい。

■ 広域連携による安全・安心な地域の形成 について

コーディネーター

次に、定住のための安全・安心な地域の形成についてであるが、これは、医療や教育といった非常にシビアな問題があり、それをクリアできないと定住は進まないこととなる。これに関しご発言をいただきたい。

設楽町副町長

設楽町は、愛知県の北東部にあり、長野県、岐阜県の県境と近いところである。人口6,500人弱であり、愛知県で北設楽郡という一番過疎、高齢化の進んだ地域の一つである。

医療の面では、現在は町内に民間の診療所が2カ所、そして無医地区には公立の診療所が1つあるが、しっかりと治療ができる状況ではない。現在、新城市に救急医療を含めた常備消防業務を委託している。道路事情が非常に悪く、救急患者の搬送に時間がかかるという問題がある。新城市市民病院まで約1時間、豊橋市民病院まで約1時間半かかる。そこで本年度、搬送時間の短縮のため、24時間離発着が可能な専用のヘリポートの建設を、2億4,000万円弱の予算で愛知県の財政支援を受けながら進めている。患者の搬送については、愛知県の防災航空隊による24時間のヘリコプターや愛知医科大学の日の出から日没までのドクターヘリと行政との連携が上手くできている。平成20年1月に設楽町のため池でおぼれた3歳児をドクターヘリで静岡県立こども病院に搬送し、幼い命を救ったという事例もある。現在、年間20件ほどヘリコプターによる搬送がある。

平谷村村長

平谷村は、長野県でも人口の一番少ない540人の村である。矢作川の上流で、標高が非常に高く、冬の寒さも非常に厳しいところである。以前は林業が盛んだったが現在は温泉により生計を立てて頑張っている。

豊丘村村長

昨年は、雹により農産物が大きな被害を受けたが、傷害果の加工食品の販売で特に浜松市さんにお世話になった。お礼申し上げる。

豊丘村では、人口減少対策として住宅団地の建設したが、効果が表れていない。医療に関しては、飯田市を基幹病院としているが、松本空港や浜松市のヘリコプターによる搬送も行われている。

津具商工会会長

旧津具村では30年ほど前から、1年の就労体験をすると、役場の補助により家を建てることができ、また、そのための土地も役場で確保してくれる。これにより、10年以上定住している人が20世帯ほどある。今、60軒ぐらいのトマト栽培農家があるが、半分は転入者の方である。トマトだけではなかなか収入がないので、皆様苦勞されている。

鳳来商工会会長

上下流域の交流では、上野さんがおっしゃるように、地域の新聞等で情報交換し合うと良いと思う。そういう情報をもとに足を踏み入れているうちに、定住につながってくると思う。新城市では、特異な例だが、昭和10年代につぶれてしまった集落に、最近になって人が住み着くようになった。私の地域は付き合いが厳しいので、逆に束縛のない環境の方が、定住してもらえるのではないかと思う。

■ SENAへの期待について

コーディネーター

それでは、牧野市長にご意見をいただいて、最後に、SENAへの期待を一言ずつお出しいただきたい。

飯田市長

上下流域の皆様からのお話をお聞きして、私を感じたところを申し上げます、定住自立圏は、

中心市と周りの町村との役割分担の明確化により、圏域全体の持続可能性を追求していくものだと思う。三遠南信圏域にこの圏域を広げて考えても同じだろうと思う。

その意味では、上流域、下流域それぞれの役割が何かということをも S E N A にきっちり調査してもらいたい。人口動態や産業関係のデータを共有化することも大切だと感じている。また、定住においては安心安全の確保が重要であるが、役割分担の観点から飯田市、豊橋市、浜松市といった中核的な都市がその圏域での役割を果たすことが必要である。私どもについては、この地域全体の安全安心のために市立病院を守っていくことが重要である。特に市立病院の産科医師の確保に取り組んでおり、これにより特殊出生率が1.7と伸びており、上流域でも、役割分担によって子供を増やすことができると考えている。

袋井市副市長

S E N A に対しては、ただいまのお話の中の上流域と下流域の役割分担と、道の整備促進を是非精力的にお願いしたい。

設楽町副町長

人やものや情報などのいろいろな交流をもっと活発にさせていただく仕掛けを期待している。

平谷村村長

上流域、下流域、それぞれできることがあると思うので、一生懸命頑張り、手をつなぐことが大事だと思っている。

根羽村村長

一昨年、飯田市での三遠南信サミットで、浜松の鈴木市長と浜松商工会議所の中山会頭のお二人に、「四季折々自然を求めにもっと交流に来てください」と話したら、今年の村のフォトコンテストには浜松の人が非常に多く入賞した。そしてまた、平谷村、売木村には温泉バスを毎週出させていただき、根羽村ではネバーランドで商

品を買っていただくという交流が続いている。

下條村村長

南信州地域には151号と153号があり、下條村にも151号が通っているが、地形的原因もあって特に151号は整備状況が悪く、交流は豊橋より名古屋に向かっていく。道路の整備を強くお願いしたい。

豊丘村村長

三遠南信自動車道の開通を願っている。

浜松商工会議所会頭

先ほど飯田市の牧野市長がおっしゃったように、役割の明確化をすることが重要で、この戦略をしっかり立てることを S E N A に期待をしたい。

津具商工会会長

道路が一番大事である。私どもの地域では、豊橋や浜松へ行こうと思っても、500メートルぐらい乗用車のすれ違いができないところがある。是非とも道路網の整備をしてもらいたい。

鳳来商工会会長

この圏内で、自分たちの必要とする情報をいつでも取れるようにしていただきたい。

鞍掛山麓千枚田保存会副会長

情報発信としましては、これまで75カ月間、「千枚田だより」を発行している。こういうことを S E N A で取り上げていただき、情報を一元化していただけると良いと思う。

天龍村柚餅子生産者組合組合長

私どもも何とかこの地域を地図の上からなくしたくないという思いでやっている。

情報不足に関しては、三遠南信の情報誌で「Am i」というすばらしい情報誌がある。是非読んでいただき、育てていただいて、いろいろなイベントも S E N A と一緒にやっていただ

けたらうれしい。

飯田市長

木質ペレットについてであるが、袋井市の農家では岡山のペレットを使用しているので、それを圏域内で入手できないかというお話である。ご相談に乗れますよという話を今ここでしていたところである。私は、そういうSENAのマッチング機能というものを強めてもらいたいということをつけ加えさせていただく。

コーディネーター

最後にアドバイザーの上野先生にお願いしたい。

アドバイザー

皆様からは、大変前向きなご提案やご意見があったので、良かったと思っている。最後に3点ほど申し上げる。

1つは、定住促進や人づくりをするに当たっては、人には、経験、情報、ネットワーク等、様々なものが付随するため、町や村として必要な人材に呼びかけをし、情報発信することが大切である。

もう一方で、町や村の中の空いているスペースに芸術家やデザイナーが住み着き新しい創作活動を行い、時々町へ戻るといような実際の例もたくさんあるので、そういった人たちに呼びかけるという方法がありうると思う。

2点目は、連携する上で相手にとってのメリットと自分にとってのメリットがはっきりわかるような形での連携が大事だと思う。

3点目は、SENAへの注文になるが、SENAに、情報を集めそれをまた各地に戻すような、情報センター的な役割をしてもらいたい。是非ご検討いただきたい。

コーディネーター

結論としては、行動するSENAへの期待ということで、次年度、そういう動きが報告できればと思う。1年の間に議論を集約して、来年度

のサミットに臨めるようにというのを私からの注文にさせていただきたい。それでは、皆様、長時間どうもありがとうございました。